

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題1 さくらんぼ新品種の開発

6月上旬から収穫できる早生で硬肉質の白肉優良品種を中心に、生産者が安定して高品質な果実を生産できる品種の育成に取り組んでいます。

また、「4L サイズ果実 60%生産」を目標として超大玉生産が可能で輸出に適する硬肉質品種の育成に取り組んでいます。



大玉で外観の優れるさくらんぼ新品種「山形C12号」(やまがた紅王)

課題2 西洋なしオリジナル優良品種の開発

西洋なしの「ラ・フランス」に偏重した生産を回避するため、「ラ・フランス」の前後に収穫可能で、外観も優れる良食味品種の育成に取り組んでいます。

さらに果皮色が黄色に変化して食べ頃が判りやすい品種など、特色のあるオリジナル品種育成に取り組んでいます。



肉質が良く、西洋なし最高の甘さの「メロウリッチ」

課題3 りんごオリジナル優良品種の開発

近年、気象条件が温暖化傾向にあり、高温によるりんごの着色不良や果肉障害、黒星病など主要病害の発生が問題となっています。

そこで、良食味で高温条件下でも着色良好で肉質が硬く日持ち性に優れ、黒星病など主要病害に強いオリジナル優良品種の育成に取り組んでいます。



りんご交配実生の調査

課題4 ぶどうオリジナル優良品種の開発

良食味で果皮ごと食べられる「シャインマスカット」の登場により、大粒ぶどうへのニーズが高まっています。

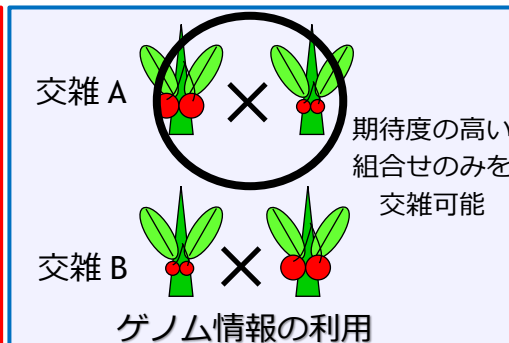
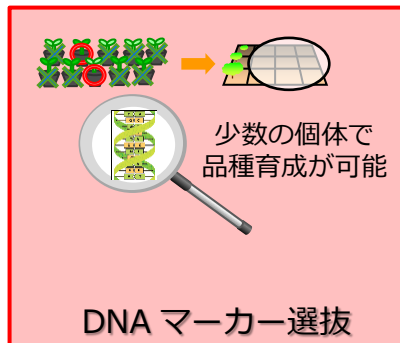
そこで良食味で高温条件下でも着色良好な赤・黒色の果皮ごと食べることができるオリジナルの大粒ぶどうの育成に取り組んでいます。



育成中のぶどう実生

課題5 ゲノム情報利用による果樹育種支援システムの開発

西洋なしでは、最新のDNA配列情報などを解析して食べ頃判定の目安となる果皮黄化性や早期結実性などのDNAマーカー開発に取り組んでいます。また、さくらんぼでは、ゲノム情報を利用して早生・大玉で高糖度の後代作出に有効な親系統の組み合わせを推定する研究を行っています。



DNA断片自動解析装置による効率的な遺伝子解析

効率的な品種改良の実現